



開園15周年を迎えて

副園長 米澤 千秋

吹く風が涼しくなり、子どもたちは散歩や屋上での遊びなどを通し、季節の移り変わりを肌で感じながら、伸び伸びと体を動かすことを楽しんでいます。

先日9月10日には、柳町こどもの森 開園15周年のお祝いをしました。皆が集って会を催すことはできませんでしたが、「15歳おめでとう！」という気持ちで大きなケーキの装飾を作ったり、各クラスで「柳町こどもの森クイズ」をしたりして、15歳のお誕生日をお祝いしました。そして記念品として、ご家庭で栽培できる「ミニ大根栽培セット」を持ち帰りました。「芽が出てきたよ!」「大きくなるのが楽しみです」など、子どもたちや保護者の方からの声が届き、親子で栽培を楽しむ様子が見受けられ、嬉しく思います。ご協力いただき、ありがとうございます。

柳町こどもの森は、平成18年4月、文京区立柳町幼稚園内に文京区立柳町保育園を設置し、幼保一元化施設として開設しました。私は本園に着任して4年目になります。4年間勤務する中で、柳町こどもの森のよさや強みをたくさん感じています。

まず、1歳児から5歳児までの異年齢児の温かい心の交流です。今は、感染拡大防止のため、他学年との交流が思うようにできない状況です。そのような中でも同じ園舎で生活する中で、ふとした場面で微笑ましい触れ合いが生まれています。ホールで遊んだ1歳児の子どもたちが保育室に戻ろうと廊下を歩いていると、5歳児の保育室から楽しい曲が聞こえ、かっこよく体操をする姿が見えました。1歳児のAちゃんは、吸い込まれるように5歳児保育室の入り口まで行き、しばらく釘付けに。その様子に気付いた5歳児が笑顔でそっと手を振り、小さい子に憧れられている嬉しさを感じながら伸び伸びと体操を続けていました。またある時は、廊下を通る自分より小さな子に、少ししゃがんで目線を合わせ、「〇〇ちゃん、ばいばい」と声を掛けていました。相手に応じた優しい関わりが見られ、とても嬉しくなりました。

そして、総勢45名の職員のチームワークも本園の強みです。12時間開所の本園では、学級担任だけでなく他学年の保育者も、朝や夕方の時間に全学年の子どもたちと関わることができます。また、月1回行っている園内研究では、子どもたちの遊びの充実や発達に応じた援助などについて意見を出し合い学んでいます。様々な視点から子どもの姿を捉えることで幼児理解をより深め、保育の充実を図り、保育者の資質向上に努めています。

本園は、こども園化に向けた改築工事が進み、変化の時を迎えています。けれども開園15周年を迎え、地域の皆様、保護者の皆様、旧職員の皆様に支えられ、培われてきた柳町こどもの森のよさは、変わらず受け継いでいかなければならないと、改めて感じております。

これからも、皆様から愛される柳町こどもの森として、子どもたちの経験が豊かになるよう、保育・教育の充実に努めてまいります。